

性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受験勧奨

研究分担者： 今村顕史（がん・感染症センター都立駒込病院）

研究協力者：砂川秀樹（明治学院大学国際平和研究所）・生島嗣（特定非営利活動法人ぷれいす東京）・荒木順子（特定非営利活動法人 akta）・カエベタ亜矢（新宿区保健所 保健予防課）、堅多敦子（東京都福祉保健局）

研究要旨

本研究は、男性を対象にサービスを提供する男性セックスワーカー（MSM-SW）とトランス女性（Trans Women＝男性から女性へのトランスジェンダー）セックスワーカー（TW-SW）が、HIV/STI に関して最新の情報を得ることができ、必要ときに HIV/STI の検査や治療にアクセスしやすい環境づくりを提言していくことを最終目標としている。

そのための現状把握と、性産業との関係づくりを目的として、今年度は、以下の三つの調査をおこなった。1. 都内 MSM 向け性産業事業者のリスト化と性産業従事者数の概算（インターネット調査）、2. A 型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり（アクションリサーチ）、3. MSM-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査）。1 の調査結果として、マッサージ／性行為を男性同性間で提供している都内の事業者は、311 軒確認できた。なお、ここでは、性行為を提供しないマッサージ店も「性産業」に含め、従事者は MSM-SW に含めている。今回リスト化した事業者で働く SW（この報告書の中で単に SW と書いているものは MSM-SW を意味する）の総数は、2,478 人であった。311 軒のうち、個人自営の（自身一人で、経営とサービス提供を行っている）事業者が 65.9%であるが、最大の従業者数を抱える事業者の上位三つが、都内 MSM-SW 数の 15.5%を占める。これらの大規模の事業者で働く者は基本 18～20 代である。

1 においてリスト化した MSM 向け性産業事業者のうち、サイト上でメールアドレスを公開している 168 軒へ、男性同性間の性行為で流行している A 型肝炎予防の情報提供に関する協力要請のメールを送信した。結果、15 軒から返信があり、8 軒からパンフレット配布への協力承諾があった。今後、依頼方法を工夫しながら、さらに協力要請を広げながら、その反応と関係性の構築も分析の対象としていく。

インタビュー調査では、SW 経験者 7 人、経営者 2 人、客 2 人、SW 支援者 1 人と、様々な立場の関係者から協力が得られた。その中で、MSM 向け性産業を利用する客層が、ゲイ／バイセクシュアル男性のネットワークやコミュニティにアクセスしていない、ハッテン場等にもいかない人が多いということが明らかになった。また、SW の置かれている状況では、昨年度、事業という形態をとらずに、流動的に個人でセックスワークを行なっている層が最もリスクにさらされている可能性を指摘したが、今年度は、支援者へのインタビューから、貧困状態の中で、セックスワークをおこなう MSM-SW が、やはり健康リスクにさらされており、かつ最もサポートが必要とされていることが語られている。さらに、トランスジェンダーの人たちが、検査や治療にアクセスするハードルが高いことも、今回のインタビューで明らかになった。なお、これまで HIV の問題に関して「男性同性間」と言う際、男性と性行為のある＜トランス男性＞について語られることはほとんどなかったが、今回、その立場のセックスワーカーから経験を聞き取ることができた。その意義は大きい。彼のインタビューからは、トランス女性がセックスワークの現場で厳しい状況に置かれがちである可能性も語られており、来年度はトランス女性当事者の調査おこない、その問題をさらに取り上げていく。

A.研究目的

本研究は、男性にサービスを提供する男性セックスワーカー（MSM—SW）や、トランス女性（Trans Women=男性から女性へのトランスジェンダー）のセックスワーカー（TW-SW）の健康リスクを下げる環境ために必要なことを探索し、提言していくことを最終的な目標としている。具体的には、HIV/STIの最新情報を得ることができ、必要なときにHIV/STIの検査や治療にアクセスしやすい環境を検討する。しかし、これまで日本においては、これらの人々を対象とした調査は十分になされてこなかったことから、まず現状把握を進めている。

昨年度は、MSM-SWを対象に次の調査をおこなった。1.海外文献を中心とした先行研究レビュー；それらの層について明らかにされてきたことの確認、2.形態の把握と分類；どのような形態によって金銭の授受を伴う性行為がおこなわれているかの分析。2に関しては、インターネット上でMSM-SWの事業者の調査と予備的なインタビュー調査をおこなった。これらの調査により、MSM-SWのセックスワークの形態について、経営の型、移動の型、性行為内容の三つの軸によって分類を試み、経営の型でいうならば、「職業的ではない、流動・暫時的に個人交渉型」でSWをおこなっている人が、もっとも健康リスクにさらされている可能性を指摘した。

しかし、昨年度は、MSM-SWの性産業事業者がどれだけ存在し、どれくらいの人々がそうした中で働いているのか検証できていなかった。よって、今年度は、東京地区の事業者のリスト化を進め、産業としての規模を把握する。さらにそのリストに基づき、A型肝炎の流行を契機として、HIV/STIの情報を流通させる関係づくりを行う。

また、昨年度よりインタビューの範囲を広げ、経営者も含めたMSM-SWの関係者のインタビューを行うことでMSM-SWの現状の考察を深め、直面している問題点を浮かび上がらせ

る。

B.研究方法

1. 都内MSM向け性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算（インターネット調査）

昨年度、ゲイ向けポータルサイトAを用いて都内MSM向け性産業事業者のリスト化をおこなったが、今年度は、さらに別のポータルサイトBの情報も加え、リストを再構成した。

Bでは、同一事業者のホームページ、ツイッター、ブログ等が、別項目として掲載されているため、すべてチェックした上で事業者ごとの単位の整理した。さらに、それぞれの事業者のホームページに掲載されている「ボーイ」とも呼ばれるスタッフ（従事者）数を数えるとともに、公開されている連絡先をリスト化した。

なお、多くの支店を持つ事業者も、ポータルサイトBでは支店別に登録されているが、それは1事業者として扱った。確認作業を進めていくと、同一事業者の中で働いている人たちが、それぞれ個人でホームページをつくることで、個人自営に見せる仕組みもあることがわかり、それも事業者としては一つと数えた。

2. A型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり（アクションリサーチ）

現在、都内を中心に、男性同性間の性行為を感染経路としたA型肝炎が流行している。この流行の情報提供に関する依頼を契機とすることで、MSMの性産業事業者（マッサージのみの提供者を含む）へアクセスし、今後のHIV/STIに関する情報流通のための関係づくりを図った。具体的には、上記1のプロセスを経て作成したリストをもとに、まずメールアドレスが公開されている事業者に、A型肝炎流行に関する情報提供を顧客に行うことへの協力を依頼するメールを送信した。客への情報提供という形をとり

ながら、SW 自身も情報を得る機会となることも狙いとしている。

そして、協力的な反応があった事業者と、情報提供の可能な形について相談を進めている。そのやり取りを経て、今後、事業者/SW から客へ、HIV/STI に関する情報を流通させるチャンネルづくりの可能性とその方法について探る。

返信内容には、事業者の性感染症の予防に関する意識がわかる内容や、性感染症予防啓発に関する意見が含まれていたことから、その内容を3のSWの置かれている状況の把握の参考にした。

具体的な働きかけを行いながら、その反応や変化などのプロセスも記録、分析の対象としてみていく調査は、アクションリサーチと呼ばれる社会学的手法である。よって、この調査研究も、アクションリサーチの一つの形として位置づけている。

3. MSM-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査）

昨年度、MSM-SW と客の予備調査インタビューにより、MSM-SW の置かれている状況について概要は把握できたが、さらに詳細を確認するため、MSM-SW、経営者、客、支援者といった様々な立場の関係者へさらにインタビューを重ねた。今回、通常こうした調査への協力を得ることが難しい経営者にインタビューできたことは、大きな成果と言える。この調査により、SW の性の健康を守るために求められていることの考察を行うが、この調査から得られた内容は、2のアクションリサーチの、情報提供のチャンネルづくりを進めるための参考資料として扱っていく。

インタビューは、自由面接に近い半構造化面接をおこない、ICレコーダーに録音した。インタビュー内容は、それぞれの立場により違いがあるが、セックスワークに関連することを中心としたインタビューのライフヒストリー、セッ

クスワークにおける行為内容と感染症予防、客-SW との力関係、検査や医療へのアクセスの容易さ、HIV 啓発への意見等を聴取した。

（倫理面への配慮）

インタビューに際して、紙面で、研究内容と録音データの扱いについての説明、任意性の確認、インタビュー中断・インタビュー後の協力撤回の自由について説明をおこない、インタビュー、説明者ともにサインし、それぞれ一部保管する。インタビュー内容を引用する際には、匿名性を保持する。

C. 研究結果

1. 都内 MSM 向け性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算（インターネット調査）

マッサージ/性行為を、男性同性間で提供している都内の事業者は、311軒（昨年度、把握できていたのは97軒）存在していた。なお、多数の支店を持つ事業者もあるが、支店を一軒として数えるのではなく、全体で一軒と数えている。調査手法上、当然、サイトを持たない事業者は含まれない。サイトを持たない事業者は、基本的に、老舗でバー形式の売り専（客がバーで飲み、ボーイを指名し外出する形式）であり、基本的に、新宿二丁目に店舗を構えている数店舗と思われる。

今回リスト化した事業者で働くセックスワーカーの総数は、2,478人であった。より多く登録しているように見えるサイトも散見されるため正確ではないが、逆にサイトを持たない事業者などもあることを考慮すると、概ね現実を反映している数値であると思われる。

311軒の規模の分類等に関しては、考察に記載する。

2. A 型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり（アクションリ

サーチ)

リスト化した 311 軒中、サイト上でメールアドレスを公開している 168 軒へ、担当の研究協力者と主任研究者の連絡先を明記した協力要請のメールを送信した。

結果、返信があったものは、15 軒。パンフレット配布への協力承諾は 8 軒であった。うち 2 軒は、ホームページに、A 型肝炎流行に関するサイトへのリンクを貼る形の協力申し出があった。

他は、客が怖がることへの不安、感染するような行為のあるサービスをしていない、などを理由に協力は難しいといった返事であった。

こうした反応を参考に、また協力的な事業者の意見も聴取しながら、さらにメールアドレスを公開していない店舗にも、反発を得ないように配慮しながらコンタクトを取っていく。

3. MSM-SW の置かれている状況の把握 (インタビュー調査)

今回、インタビューに協力してくれたインタビュー어의立場と人数は下記の通りである。

セックスワーカー	7 人	1 人は、トランス男性 (=FtM: 女性から男性へのトランスジェンダー)
経営者	2 人	大規模店 1、小規模店 1
客	2 人	1 人は AV 制作への関わり
セックスワーカー支援者	1 人	自身も路上で客と出会う形でのセックスワーカーだった経験を持つ
合計	12 人	

それぞれの簡単な経歴等を下記にまとめ、重要なインタビュー内容は考察に示す。

<MSM セックスワーカー...worker>

w-A さん : 50 代

<立場>出張マッサージ (個人自営)

<性行為>手、オーラル、アナル

<経歴等> 5 年ほど前に、ゲイ向けアダルトビデオ、何作かに出演。マッサージを勧められ、それからマッサージを始めるようになった。最初は、雇われる形で始め、二年ほどして独立。今は、一人でやっている。雇われているときも今も、行為の内容としてはアナルセックスまである。場所は、相手の部屋やホテルへ行く形。アナルセックスを選ぶ人と、ないコースを選ぶ人は半々くらい。無くても、希望があればオーラルまではあり。普段は会社員として勤めており、マッサージ業は週末だけ。オーラルセックスではコンドームは使わないが、アナルセックスでは必ず使っている。アナルセックスでコンドームを使わないことを強制されることはない。

w-B さん : 30 代

<立場>マッサージ (個人自営) / 小規模店舗の受付

<性行為>手、(まれに) オーラル / (受付スタッフとして勤務している店) 手のみ

<経歴等> 自分でマッサージを始めたのは約 1 年前。自宅兼仕事場となっている場所に来てもらう形。自分でマッサージを始める前から、20 年くらい続く男性同性間のマッサージ店の受付をしている。そこでは 1 年半くらい働いている。その店は、スタッフは 15 人ほどいて、性行為としては手で客を射精させるまでで、それ以外は禁止されている。そこで働いている人は 20 歳から 40 歳くらいで、ノンケ (異性愛者) が多い。自分の自営マッサージの参考にするため、他のマッサージをやっているところへ時々行くが、どこもオーラルセックスまでで、そのときにコンドームを使うところはない。

w-C さん : 50 代

<立場>マッサージ (個人自営)

<性行為>手、オーラル

<経歴等>自分でマッサージを始めて10年くらい。自宅兼仕事場の場所に来てもらう形。その前に、支店をいくつか持つ店舗型マッサージ店で働いていた。11~12年くらい。よって、マッサージの仕事は、トータルで21~22年になる。今、自分のホームページでは「抜きあり」とは書いていないので、自分は、マッサージメインと思っているが、客は抜きありを期待してくることがほとんど。オーラルですることもあるが、そのときにコンドームは使わない。こういう仕事をしているので、プライベートでも予防するようにしている（アナルセックスではコンドームを必ず使うように）。

w-D さん : 40代、

<立場>マッサージ（個人自営）／客としてマッサージ利用

<性行為>手、（たまに）オーラル

<経歴等>10年くらい前に3年くらい集中的にマッサージをやっていた。今も、サイトを消していないので、連絡があって都合が合うことがあったらやる。お互いのタイプもあるので、手で抜くだけだったり、オーラルがあったり。アナルは、相手に求められてなりゆきで三回くらい。／（客として）マッサージサイト（マッサージサービスを売る人、買う人が個人でメッセージを乗せるインターネットサイト）で探して。客として利用する場合、アナルセックスまではしない。オーラルまでで、そのときは、コンドームは使わない。

w-E さん : 40代

<種別>売り専（中規模店-被雇用）／ビデオ出演

<性行為>手、オーラル、アナル

<経歴等>現在、ボーイが30人くらい在籍しているところで働いている。そこで働いて、2年半くらい。事務所に個室が併設されており、そこ

を使うこともあるが、ホテルや自宅に出張したりもする。本業を持っているので、本業が休みのときにシフトに入る形。事務所などで待機する必要はない。最初に、セックスワークを始めたのは、32か3歳のとき。売り専のお店に所属する形で。そこで、2、3年働き、さらに、別のお店で1年半くらい。いずれも、待機はなく、指名が入ったら直接向かう形。前の店も今の店も、サイトに、健康を守るためにコンドームを使ってくださいと書いてあったと思うが、働き始めるときに、マネージャーからそうしたことにする指示はなかったと思う。ビデオにも2、3年前から出ている。そこでは、アナルでは必ずコンドーム使ってください、と言われており、実際に徹底されている。

w-F さん : 30代

<立場>売り専（小規模店-被雇用）／ビデオ
<性行為>手、オーラル、アナル

<経歴等>小規模（登録6人）の売り専の店で働いている。本業は別にある。登録したのは、2017年の3月か4月だったが、最初に客がついたのは6月。その店は、アナルセックスでウケ（挿入される側）のお客さんの「トレーニング」をするというサービス内容。店としては、手袋とゴムは必須。キスも店としては断っている。こちらからオーラルをすることはなく、客がしたいと希望すればあり。そのときもコンドームをつける。プレイできる場所もあるが、基本的には派遣の形。この仕事を始める前から、2012年からアダルトビデオに出演してきた。出演しているビデオでは、アナルではコンドームは必ず使うことが徹底されている。出演に際して、性感染症の検査等に関して確認されることはない。

w-G さん : 20代

<立場>派遣型風俗（中規模店-被雇用：トランス男性として男性向けにサービスを提供）

<性行為>手、オーラル、素股

<経歴等>1年以上前から、今の仕事を始める。待機する場所はなく、この時間にこの場所で予約が入ったのでお願いします、という形。指名がなければLINE（メッセージアプリ）で、空いていたら入ってください、と。本業は別にあり、月に1回くらいこの仕事をする感じ。女性が働く風俗に比べると利用者は少ない（以前、性別を移行する前に女性として働いていた経験がある）。性行為は、フェラチオでもゴムを使う。挿入はできないので、素股で。働き始めたときに、マニュアルを渡されて、それを見るだけ。今、自分は、戸籍上は男性だけれども、性器としては膣を閉じていないので、女性器の状態。店からは膣を使ったセックスはしないでください、と言われてもいる。スタッフによっては膣を使ったセックスがあることもあるみたい。アナルは、オプションで別料金。でも、ほとんどのスタッフは、アナルはダメ（できないという条件）にしていると思う。トランス女性は、アナルは必須なので、アナルセックスをしたい客はそっちに行ったりする。客として来る人たちは、ゲイではない人たち。ある程度のセックスをしてきて、ちょっと変わったセックスをしたい人たち。

<経営者...owner>

ow-Aさん：40代

<立場>売り専（大規模店・経営：従事者は18～20代50人以上）

<種別>売り専（a.出張／個室 b. バー型）

<経営形態>aは、客から電話がかかってきて、ホテルに出張する形か、事務所に来てもらい、写真で選んでもらう。待機しているボーイと顔を合わせて、気に入ったら連れ出すか、いくつか個室を所有してあるので、そこを使うことも。bは、カウンターの中にボーイがいるバー形式で、気に入ったボーイを指名して連れ出る。やはり個室を使うことも可能。ただ飲んで帰る

人も多い。飲むだけなら女性も入店可。aとbで働いているボーイは重なっている。ボーイは、スカウトをして雇う。そのスカウトのためだけのスタッフがいる。辞める人も多いので、月に20人くらい面接しないと回らない。寮があり、30人くらい寮に入っている。出張に行くときには、ボーイには必ずコンドームとローション（潤滑剤）を持参させ、アナルでは必ずつけるようにと指導している。フェラチオでは使わない。HIVなどの検査は各個人に任せているが、店長が厳しい人で、調子が悪いボーイがいたら検査に行くように勧めて、時には店長がついていく。発展場と売り専は、客層は違うので、HIVはそんなに蔓延していないのではないかと思う。30年近く前、自分もボーイをやっていた。その時代は、コンドームをつけるという感覚がなかった時代で、それでも性感染症にかからなかった。むしろ、やめた後に、B型肝炎とか経験した。そのときの感覚で、大丈夫なんじゃないかと思ってしまうところがある。

ow-Bさん：30代

<立場>売り専（個室／出張）（小規模店・経営：従業者は20代10人）

<性行為>手、オーラル、アナル

<経歴等>もともと、自分自身、売り専でスタッフとして5年くらい、小規模店で働いていた。それを辞めた後に、経営を始め4年目。本業は別にある。スタッフは入れ替わりが激しいが、10人前後。皆、20代。部屋があり、そこに来てもらう形か、自宅、ホテルへ出張。客はネットで指名する。完全にネット型。スタッフは事務所待機はせずに、そのまま直行する。スタッフは、ゲイとかバイの人が多い。ノンケ（異性愛）の人は、1割くらい。働く人は、スカウトはしておらず、自分で「売り専」と検索エンジンで調べて来る。この仕事一本でやっている人はスタッフにはいない。これだけでは生活できないので、そういう人は雇わない。なので、

皆、本業を持っている。ちゃんとした仕事している人も。学生もいたりすることもある。HIV検査はそれぞれに任せている。サイトには、感染症予防のためケツ舐めも禁止と明記してある（もともとマッサージだけやっていた時期があったこともあり）。

<客...patron>

p-A さん：20代、

<立場>客として利用

<形態>個室、出張

<経歴等>性経験らしい性経験がなく、いきなりネットで出会いを見つけるのは不安で、仕事をしている人の方がリードしてくれるのではないかと思って利用した。最初は、3年前（20代半ば）、ホームページで見て、評判も検索して決めた。電話をして指名、マンションの一室で事務の人と会い、支払ったのち、併設されている個室で性行為。フェラチは主にしてもらった形だったが、その際はコンドームなし。アナルでは向こうがリードしてつけてくれた。2回目、3回目は出張型で自分の部屋に来てもらった。フェラチオではコンドームなし、アナルでは向こうが持参したゴムを自分でつけた。4回目～6回目は個室があるところで。行為も予防も同じ。ただ、6回目は、相手の希望で口の中に射精。

p-B さん：30代

<立場>客として利用／アダルトビデオ編集

<形態>個室（待機型）

<経歴等>客として利用したのは去年。しばらく入院したあとで太ってしまっていたので、それでは相手は見つからないだろうと思い、また、セックスに慣れるには、ボーイさんで慣れたほうがいだろうと思った。お店に行き、指名し、シャワーのある個室に行く形。4回とも同じ人。相手はオーラルはせず、アナルではコンドームを必ず使った（ボーイが自分でつけて挿入）。でも、相手はお尻を舐めたりしていたの

で、それはいいのかな？と思った。自分の友達とかを見ていると、売り専の人の方が予防には気を使っている。売り専をしている人と3-4ヶ月付き合ったことがあったけれど、彼は、自分とのセックスでも気をつけていたし、もともと、ノンケ（異性愛者）でもあり、あまりセックスが好きな人じゃなかった。ビデオの編集の仕事にかかわったことがある。ビデオ会社は、母体が売り専の会社のところがあるが、そういうところは、ビデオに出ることで、指名が増えるということで、売り専のボーイが積極的にビデオに出る。

<支援者...supporter>

s-A さん：30代

<立場>路上でのSWを経て、その後、支援者、相談者として活動

<支援対象者の状況について>売り専に所属している子たちと、路上の子たち（路上で客を見つけるSW）は全然置かれている状況が違う。売り専に所属している子は、路上に、二丁目の街に立っている子と友達になっちゃいけないし、関わっちゃいけない。なぜなら、お店介して会っているお客さんを路上で引くことができるから、商売敵でもあるし。路上の子たちには、自分が、皆に生活保護受けるように勧めてまわったから、生活保護につながるようになった。そのため、路上にはあまりいないかもしれない。最近に、自分のところに相談に来るのは、生活保護受けているもと路上の子とか。男性同性間のセックスワークの問題を取り上げるときに、売り専（お店の形態）のこととして全てが語られると、そうではない、そういう子たちにとっては、「また路上のことやってないんじゃないの」という感じになると思う。（路上などでセックスワークをしている人たちについては、考察にもインタビュー内容を掲載）

D.考察

1. 都内 MSM 向け性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算（インターネット調査）

今回リスト化した 311 軒のうち、個人自営の事業者が、65.9%を占め、軒数としては大部分を占める。

こうした個人自営は、ホームページ上では、マッサージ提供のみをサービスとして掲げている事業者が大部分であり、実際に全く性行為を提供していない事業者も含まれるが、2のインタビュー調査からも明らかのように性行為の提供を含むことが多い。よって、ここでは性産業のカテゴリーに入れ、そこで働く人も MSM-SW の算出に含めている。

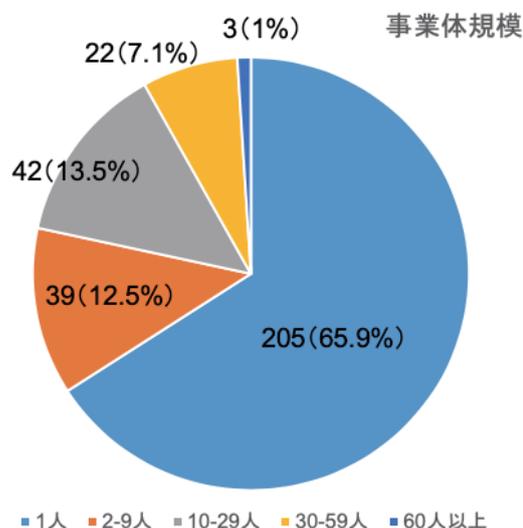
リスト化した事業者で働く MSM-SW の総数 2,478 人のうち、最大の人数を抱える事業者における従事者数は 182 人となっている。次いで、133 人。三番目が 70 人となる。上位二つは、都内にも多数の支店を抱え、全国の都市部でも事業を展開している、ゲイの企業としては最も大きな企業の一つとも言える。この上位三つの事業者により、都内従事者数全体の 15.5%を占める。

なお、個人自営を行なっている人たちや小中規模で働く人たちの年代は 20～60 代まで多様な一方、大規模店で働く MSM-SW のほとんどが 18～20 代中盤である。年齢は若く表示していることもあり正確ではないが、基本的には 20 代と考えると間違いはないだろう。

また、インタビュー調査からは、働き始めた後、数日で辞める人もおり、経営者は（特に大規模店では）毎月 20 人ほど面接しなければまわらないと経営者が語っていたことから、ある地点で算出する人数よりはるかに多くの人が、MSM-SW の経験をしていることになる。

さらに、性産業従事者には、こうした調査にはカウントされない、サイトを持たず、掲示板に書き込み、やりとりする形で個人でセックス

ワークを行う人（流動的・個人交渉型）もいることも重要であり、2のインタビューで見られるように、こうした層こそが、もっともサポートが必要とされていることも明記しておきたい。



2. A型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり（アクションリサーチ）

協力要請をおこない、反応のあった 15 軒中、1 軒は大規模店、1 軒は小規模店、残りは全て個人自営であった。

そのうち、パンフレット配布への協力承諾の 8 軒のうち 1 軒は、小規模店、残りは全て個人自営の事業者である。

こちらから送信した協力依頼への返事には、いかに HIV や STI 感染症に気をつけた行為をしているかということを強調する内容や、性産業よりもハッテン場での性行為や、意図的、選択的にコンドームをつけないアナルセックスを盛んにしている人たちが問題ではないかという内容が見られた。

MSM を対象とした性産業が、MSM の性的な環境全体の中でどういう意味を持っているのか、広い文脈の中に位置づけて解釈する必要性があると言えるだろう。

3. セックスワーカーの置かれている状況の把握（インタビュー調査）

以下、聞き取られた内容から、本研究の主題と関連したセックワーカーの置かれている状況を把握する上で、重要なトピックを「性行為の内容と予防」「非予防行動」「客層」「MSM-SWの階層差と多様性」「トランスジェンダーSW」に整理し、語りに即して抽出した。

以下、記述内における（ ）は、調査者による補足説明、【 】は、会話中のインタビューアーによる言葉を示す。

性行為の内容と予防

<種別：マッサージ>

・w-Bさん

マッサージはもちろん、無料で手で抜いてあげるくらいですね。メンズ専用なので、そういう方がみなさん来られるというか。一応、予約確定したら、メールで、希望者には手で、ハンドリフレッシュという形ですけど、不要な方はおっしゃってください、と。ほとんどの方が希望されます。ハンドリフレッシュまでとなっても、来られない方もいらっしゃいます。

それ以上のことも（期待されることもある）。でも、それはお断りしています。（無理強いしてくる人に対して）笑ってごまかすしかないんですけど、ハイって（押しのけるそぶりを見せる）。

・w-Cさん

（提供するサービスは）オーラルですよ。ホームページ上では、抜きありとほうたっていないので、マッサージメインと思っているんですけど。マッサージだけの人もいるけど、1割いないくらい。まあ、両方気持ちよかったらオッケーみたいな感じですかね。

・w-Dさん

【（性行為は）どこまで？】それもまた、なりゆきなんですよ。ほんとに、ただ抜いて欲しい人と、タイプとか、お互いあると思うんですよ。ちょっと...と思うと、手で抜くだけで。でも、フェラチオをすることもあった。そのときはコンドームは使わなかったですね。

・w-Aさん

（アナルセックスについて）自分自身は生でやりたくないの、セーフで、という感じでやっています。お客さんも、特にそれに対して、いや生がいいって言われるのは本当にまれですね。無理強いしてくる人は全くいないですね。

<種別：売り専>

・w-Fさん

（提供サービスの内容として）アナルセックスの感度をあげたりとかが、メイン。一応、お店としては、手袋とゴムは必須。で、お店としては、キスは一応断っているけど、一応、現場で希望があったら、臨機応変に対応してくれていいです、と言われてます。

・p-Bさん

シャワー浴びて、フェラチオ、挿入。相手は（自分に対して）フェラをしない。相手はケツ舐めをするから、いいのかなあ？と思ってた。向こうが自分でコンドームをつけて挿入する、みたいな。つけなくちゃいけないと言ってた。

・p-Aさん

僕が行ったところでは、コンドームをつけるというのは当たり前感じになっていて、流れ作業の感じ。向こうが用意してくれたコンドームを自分でつけた。

・ow-Bさん（経営者として）

フェラチオに関しては、どうしても、ゴムつけてっていう方はそんなにいないことが多いです。

で、アナルセックスはもう必ず、ゴムをつけてください、って。M、Lのサイズをちゃんと置いてあるので。

【(アナルセックスでコンドームを使うというルールは)守られてる感じですか?】そうですね。大半は守られてると思っているんですけど、話ちゃんと聞きながら、ヒアリングしながら、毎回終わったら、とか、やってるんですけど。ま、もしかしたら、というのはありますよね。

・ow-Bさん(自身がSWだった頃の経験として)

【予防行動自体はどんな感じでした?コンドームは必ず使えるのか...】それは、必ずでしたね、100パーセント。(そのときに、お客さんが結構拒むということもなく?)あー、ひとりだけいたんですけど、それは、拒んだら、そうですね、「おかしいな」って言ってましたね。(笑)。違うところでは、できた、ゴムつけなくてもできたって言って。【そういう、できてしまうときもあるってことですね】そうですね、ボーイさんによって。

<種別：派遣型風俗...トランス男性として>

・w-Gさん：フェラチオでも、ゴムか、手コキでやるかくらいで。挿入も無理なんで素股でやったり。ゴムなしで手コキでやってくれとか、フェラをしてくれとか、いう人もいて、そこら辺をみんなどう対応してるかわからないんですけど、自分は結構うまくかわして、性感染症って結構怖くて。お店にいるときはお店に守られてる。お金も一定数もらっていて、きちんとしなきゃって思うんですけど、ここ(掲示板とかでのプライベートの出会い)になると、なかなか断れなかったり。

非予防行動

<種別：売り専>

・w-Eさん：(客から、アナルセックスで、コンドームを使わずにやりたいという要望について)結構あります。実は、いろいろ遊び慣れて

る感じの人は、やっぱり。3割くらい。正直いうと、生のほうが好きというか、やっぱり、コンドーム使うと痛いので。生のほうが気持ちいいといえば気持ちいいので、まあ。でも、リピーターの人のコンドーム使わない人はいないですね。安心して何度でもできるというのはあるかもしれないですね。安心してしたい、という。

・p-Aさん：お尻をやろうとしたときに、自分がつけようとして、なんかそのままでいいよ、というモーションをかけてきた。でも、「つけた方がいいですよ」と言ったら、「うん」と言ったので、なんか人によって、つけてもいいし、つけなくてもいんだなという感じでしたね。最後、じゃあ、終わりますってなったときに、結構わりと、(他の人は)お腹の上に出すとか場所をコントロールしようとするんですけど、(その人は)口の中についていう感じにして。飲み込むのもあれだからと思ってティッシュでしたら、うーん、なんかわかってないなあ、という感じだったような。そういう嗜好もあるだなあ、と思った

・ow-Aさん：ゴムをつけなさいとって、出張に行くときには、ゴムとローションは持たせてる。あ、フェラに関してはゴムはつけろとは指導してなくて、むしろつけるな、ぐらいな感じでやっているけれども、バックに入れる、入れられるに関しては、ゴムは持たせています。中で、本当にゴムをつけてるのか、つけていないのか、というのは、正直、つけてね、という指導どまりですよ。でも、ここ5年くらいは、むしろ若い子たちは、お店がつけろとって、もうタイプだったらつけなくていいやぐらいな感覚で。それをなぜ思い出したか、というと、A君はつけなくてもやらしてくれたのなぜ君はやらしてくれないの、っていう風にお客さんから言われた場合は、どう対応したらいいで

すか、という相談を受けたときがあるので、つけてない子もいるんだな、という風に。

・ow-Bさん：お金が欲しいから働いてるっていう人と、お金プラスセックスしたいから働いてるっていう人がいるんですよ。だから、ゲイの方とか特に、お金プラスセックスしたい、で、タイプの人 cameたら、たぶん、生でやっちゃうとかいうひともいると思うんですよ、中には。お金だけの人はきっちりしてる。

客層について

・w-Aさん：あまり、マッサージのお客さんとかって、ゲイバーとか二丁目文化がない人が8割くらい、ですかね。二丁目界限の人たちで、そういう風に遊んだりする人はあんまりない。ほとんど発展場とかも行ってなくて、で、あまりそういうのもよくわからないみたいな人たち。ネットとかで見つけて声かけてくれる、みたいな感じですね。【性経験自体もあまりない人も？】そうですね。

・w-Bさん：30代が多い。40代のほうが多いですかね。ご結婚されてる方ももちろん、来ますし。(ゲイバーとか発展場に) 行けないからこそ、こういうところに来てるのかな、という印象を受けますけど。

・w-Cさん：下は40位から上は70代。場所柄(浅草)というのもありますし、マッサージということ考えると。50代から60代。だいたいホームページをみて。バリバリゲイという方よりは、地方とかで、興味はあるんだけど、あまり経験はないし、怖いし、発展場は行けないし、という方が来られるケースが多いですね。もちろん、どこへも行かれる方もいるんですけど。半分ノンケさんとか。興味はあるんだけど、みたいな感じとか。

・ow-Bさん：30代、40代が中心ですかね。20代とか上もいますけど。既婚だったってよく聞きますね。初めてですと言われたとか、男性と。ゲイだけど、男性とやったことないから、とか。

・p-Aさん：それまで性経験らしい性経験なかった。ネットとかに書き込んだり飛び込んだりする気持ちがなかった。それまで極力普通の人のふりをしていたので、いきなりそこには入れなくて、そのまえにたしなみをと思って。仕事をしている人のほうがリードしてくれるんじゃないか、と。

・w-Eさん自分を指名して下さったお客様も、発展場とかには行かない、っていう方の方が圧倒的に多いです…理由は色々ありましたが、病気が怖い、っておっしゃる方もいらっしゃいましたし、あとは、確実にタイプな人と遊びたい、とか、身バレしたくない、とか…というより、二丁目じたい行ったことがない、とか、ゲイの知り合いがいない、っていう方もいらっしゃいましたね…

・ow-A：逆に発展場を知らないであるとか、飲み屋を知らないであるとか、もうこの風俗だけで、普段はノンケ生活してる、みたいなほうが多いから、僕は、たまたまクラブもやって(=経営して)いたり、飲み屋をやったりして、で、売り専もやって、感じたことは、あ、人種が違う、それぞれ人種が違うな、っていう。

全種制覇して遊んでる人はいるけれど、比較、売り専の人の客層がそもそも違うんじゃないかなあ、という気が。それこそ、「アゲハ」(人気のある大きなイベント)が強かった頃に、「アゲハ」に行く、人がばっと行ったら、ゲイバーからは結構お客さんがまあ、かなり流れたとしたら、全く売り専は売り上げは落としも

しなければ、そこで（「アゲハ」の会場で）、あ、〇〇〇のオーナーさんってまったくいわれなくて、むしろボーイが、は、自分に見つかったってみたいな感じで、ボーイ側は比較的いたとしても、お客さんは、人っこひとり見たことないですね。

MSM-SW の階層差と多様性

・ow-A：（抱えてるボーイのうち）30人くらいは、寮生ですね。（寮生というのは？）一つ、大きな、仮にこれくらいのワンルームマンションだとしたら、もう布団だけあって雑魚寝で、みたいな感じのところいくつか借りてて、一人一部屋というわけではないですけど、共同生活になるんですけど。寮にいれば、ま、とりあえず寝てて、ま、本人は夜中に寝てるけど、寮生であれば今から60分あるから出てって言えば、寮生の子はたいてい、出てはくれるんで。よっぽどもう無理っていったら、今日だけは勘弁してくださいって言う。でも、それでも本人にとっては、タダで住まわせてもらっているという感覚をもっているから、あんまり、断りづらいだろうな、と。だからと言って、もちろん、強制しているわけではないですけど。

一つの例としては、自分がゲイなのか、ゲイでないのかという、仮に地方の子、地方の子が多いですけど、すると、試しに一回、こういうところで、やってみようと、なにか金に困っている若いて子っていないんじゃないかな、っていうくらい、僕が若い頃って、ほんとうにお金に困って働いてる子も意外と多かったんですけど、今は、友達づくりの一環として、若い子が職場にいるからという感覚で来てる子が多いかなあ。あるいは、ゲイなのか、ゲイじゃないのか、したらやっぱりこういう仕事抵抗なく、なんとなくタイプはもちろんできちゃうだろうけど、あ、できる自分は、ゲイだ、なのかなあ、みたいな。試しに来る子も多いって感じですね。

・ow-Bさん：（セックスワークを）一本でやってる人はいないですね。そう言う方は断ってるんで。（それはなぜ）そこまで、毎日お客さん入るってわけではないんで、一本に頼って来ても、生活はできないっていう風に伝えて。仕事してる、ちゃんとした仕事をしてる人もいたり。

・w-Dさん：（現在、客として利用するときに）明らかに生活が苦しいんだなあ、っていう人もいます。

・s-Aさん：（ホームレス状態で売ってる子、生保を受けてる子などが、HIVに関して）感染するしないということをまず考えないですよ。むしろ、もう自分感染してるじゃないかと思って、そのまま、でもとりあえず飯を食べていけなくちゃいけないから、という感じでやる子の方が多い。最近になってうちに相談に来るのは、生保受けてる、もと路上の子？就労意欲もないし、学校も行っていないから、生活保護のお金使い切ったちゃったら街に出てとか。なんだろう、家で売ってるみたいな子も多く。世の中のことなんにも知らずに、ただ、部屋、居宅保護されただけだから、仕事の探し方もわかんないし、お金のコントロールもできないから、あと、依存があったり、ドラッグが、とかいろいろあるから、保護費おいたら、その日に全部パチンコに使っちゃうとか、って結構いるし、うん。そうそう、だから、なんだろう、そういう子のサポートが必要なんじゃないかなあ。

・ow-Aさん：この仕事をして、性病というくくりにおいて、不幸にさせたボーイはいないかな。今のところは、ただお金に関しては、いったん、もうこの道に入ると抜け出せなくて、いつまでもやめられなくて、みたいな、日銭が入るから、日銭を持ってギャンブル行っちゃった

りとか、いうくせ、そういう不幸な面はあるけれど。

トランスジェンダーSW に関して

(以下、w-G さんのインタビューから)

(診察について) 一応は、躊躇するんですけど、性病って結構わかるじゃないですか。女性ってオリモノとか出てきたりして、これは行かないとやばいなあってなってしまった時に、まあ、調べて症状とか、本当は泌尿器科に行きたいんですけど、なかなか泌尿器科に行って、女性の生殖器と男性の生殖器と症状が違うじゃないですか。その時に、説明ができないんです。なかなか、泌尿器科に行っても、え、なに？なに？それ、って言われて、適切な治療してもらえなくて、それがすごい困りましたね。婦人科に行ったこともあって。で、この見た目(男性に見える外見)もそうだけど、保険証も(性別が)変わってて、戸籍は男性なんですけど、男性とセックスをしていますという風に説明はするんですけど、なかなかその婦人科でも理解がなくて。どういうことですか、って。はるな愛さんみたいになりたいんですか、みたいに言われたりして。すごい説明だけで、かなり時間を取られるんですよ。

駆け込み寺がないので、もし、自分が STD とか、まあ、HIV になった時とかに、どこに相談したりとか、「ふれいす東京」がしてるので、まあ、あると思うんですけど、やっぱりそういう、他の人とかもわからない人がいっぱいいると思うんですよ。で、嫌な思いを病院とかでも。生物学的なところに行かないといけないうてなった時に、困るのではないかな、と。

(トランス女性について、友人の話として) 結構、お客さんとかで、やっぱり本番をしたいとかいう方がいるみたいで、お尻だから大丈夫だろっていう人もいた時に、なかなか断れずに、やってしまうか、やってしまった時に大きすぎ

て、肛門が切れて、出血をしてしまう。

(そういうところも、基本的には挿入行為はなし、自分で選ぶ?) そうですね。

(略) といった時に、そこで感染リスクとかあるけれども、ま、なかなかお金をもらってる、以上言えない、ということもあるみたいですね。あとは、そのじぶんが掘る側になった時に、勃起薬を飲んで立たせなくちゃいけないとか。

(トランス女性でも男性器が残ってる状態とか?) そうですね。竿はあって、一応、あの、精巣はとってる状態で、で、勃ちにくい状態なんですけど、働いてる以上、勃たせて掘らなくちゃいけないので、女性ホルモン飲んでいるのに、勃起薬を飲むみたいな、(体に負担がありそうだよ) はい、ということをされるみたいですね。

(トランス女性として働いていても、まあ、必ずしも受け役とは限らないというわけなんだね) そうですね。(w-G さん)

E. 結論

今回確認できた都内 MSM 向け性産業事業者(マッサージのみの提供者も含む)は、311 軒であった。そのうち、個人自営が 65.9%を占めている。これら性産業で働く MSM-SW の総数は、2,478 人であり、上位三つの事業者により、都内従事者数全体の 15.5%にのぼる。

個人自営で性行為のサービスを提供しているところでは、HIV 等の感染リスクと予防に関して高い意識を持って経営しているところもあり、A 型肝炎に関する情報提供を求めるアクションリサーチとして位置づけたアプローチでは、ハッテン場や各個人の意識の方が問題であるという指摘も受けた。性産業と性感染症を結びつける視点への反発も感じられ、介入の方法には十分な注意が必要と思われる。

しかし、このアプローチに対して好意的な反応もあり、これからパンフレットの配布などを

依頼しながら関係を構築し、そうした性産業従事者から客への情報の流通の可能性をさぐりながら、継続していく。

インタビュー調査からは、限られた対象者からの聞き取りではあるが、個人自営からも、また店舗で働く MSM-SW からも、客との関係の中で、望まない行為を強いられることについては聞かれず、暴力存在が問題となりやすい男女間の SW とは、客-SW の一般的な力関係が異なっている可能性が考えられる。

また、行われている性行為とその中での予防行動に関しては、個人自営業者では、サービス内容が基本マッサージとなっていることもあり、性行為サービスを提供していたとしても、手で客を射精させるのが主となっている。オーラルセックスがおこなわれることはあるが、アナルセックスがあるところは少ない。

MSM 性産業全般として、オーラルセックスでは、客が希望しない限りコンドームが使われることはなく、結果、ほとんどコンドームなしで行われている。一方、インタビュー調査からは、アナルセックスではコンドームの使用傾向は高い傾向にあることがわかっている。中・大規模店でも、経営者側からは、従事者である SW に予防を呼びかけている。ただし、予防の実行に関して、MSM-SW 個々人の差が大きいことがインタビューからうかがえており、その個人差に対してどういう働きかけができるのか、検討課題として残る。

なお、MSM 性産業の客層として、ゲイ/バイセクシュアル男性のネットワークやコミュニティにアクセスしておらず、ハッテン場等にもいない人が多いという印象をどの SW や経営者は持っている。また、先に述べたように、SW 自身もアナルセックスでのコンドーム使用傾向が高いという判断から、事業として確立しているセックスワーク内では、感染症の広がるリスクが低いと経営者や SW は感じているようである。ただし、その「リスクが低い」という意識

は、ハッテン場を含め、MSM の間で意図的、選択的にコンドームを使わないアナルセックスをおこなう人たちもいるという文脈の中の話であることへの留意も必要だろう。

しかし、いずれにせよ、昨年度の報告と重なるが、貧困状態の中でセックスワークをおこなう MSM-SW が、様々な健康リスクを含めた生活上の問題を抱えがちなことは明らかであり、もっともサポートが必要とされているは繰り返し強調しておかなければならない。

また、今回、大規模な店舗で働いている SW たちは、若者が多く、SW を辞めた後のライフコースの問題も経営者のインタビューからうかがえた。

さらに、トランスジェンダーの人たちが、検査や治療にアクセスするハードルが高く、アクセスした後も理解されることが多いことが、今回、男性向けセックスワークをおこなっているトランス男性のインタビューで指摘された大きな問題である。なお、これまで男性同性間といったときに、トランス男性で男性と性行為のある男性は視野に入れられてこなかった。今回のインタビューでは、その立場からの話が聞けた意義は大きい。

そして、昨年度は、海外の文献の調査から指摘したが、トランス女性が、セックスワークの現場で厳しい状況に置かれがちである可能性が、インタビュー調査からうかがえた。来年度はトランス女性の問題をさらに取り上げていく予定である。

F.健康危険情報

特になし

G.研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表 なし

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

①特許取得

なし

②実用新案登録

なし

③その他

なし